

【コピー、転送、回覧など多くの人にお渡しください。各団体各地の活動をお知らせ下さい】

# メールニュース

No.23-3  
2023年 1月19日

安保破棄中央実行委員会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13  
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

## 岸田政権の「戦争国家」づくり反対 大軍拡と国民生活犠牲を許さない 2023年度幹事会 運動方針、役員など決定

安保破棄中央実行委員会は18日、全日本民医連会議室でオンライン兼ねて2023年度幹事会を開き、運動方針や役員などを決めました。

東森英男事務局長は、運動方針提案で、昨年末に閣議決定した「安保3文書」の「国家安全保障戦略」などで、日本が攻撃されていないにもかかわらず憲法・国際法違反の「先制攻撃」や無差別攻撃を可能にすることは重大であると指摘。これまでの「専守防衛」としてきた安全保障政策を大転換した今回の3文書改定を批判し、大軍拡のための増税には多数の国民が反対しており、これを許さない国民的な運動が求められていると訴えました。今年の最大の課題は、岸田政権による「戦争国家」づくりの大軍拡を許さず、憲法を生かした外交でアジアと世界の平和構築に貢献する政治への転換を求めるたたかいであると述べました。

東森氏は、当面する情勢のもとでの安保中央の役割と活動は岸田政権による大軍拡・増税で国民生活の犠牲を許さず、戦後史の大転換を許さないたたかいにふさわしい規模の国民運動をつくるのが重要であると呼びかけました。

当面のとりくみでは、「平和、いのち、くらしをこわす大軍拡、増税NO!連絡会」(仮称)を中心にした国民運動・署名などを進めるとともに岸田政権打倒にむけて、解散・総選挙を



安保中央幹事会(18日、全日本民医連会議室)

求め、統一地方選挙での大軍拡反対の政治勢力の前進のために全力を挙げることを訴えました。

新ブックレット「岸田大軍拡と『戦争国家』づくりー政府の新『安保3文書』を斬る」の普及と学習を進めることや1月28日の学習と運動交流の集い、3月14日に向けてオール沖縄会議が呼びかけた「辺野古新基地建設の断念を求める署名」を大きく広げることなどにとりくむことを確認しました。

各団体から9名が発言し、安保3文書批判や米軍基地被害、平和・憲法学習などの活動が報告され、活発な討論が行われました。運動方針、決算・予算は参加者全員の賛成で採択されました。

東森英男事務局長ら役員を選出しました。幹事会には13団体17人が参加しました。

東森英男事務局長は、馬毛島基地建設工事の本体着手に抗議する談話を1月13日に発表しました。

### 馬毛島基地建設工事の本体着手に抗議する(談話)

政府・防衛省は12日、鹿児島県西之表市の馬毛島に、米空母艦載機部隊が陸上離着陸訓練(FCLP)の移転などを行なうための自衛隊基地建設の本体工事着手を強行しました。

私たちは、地元住民の「基地建設反対」の声を無視して、アメリカの軍事戦略に追従して軍事基地建設を強行する岸田政権に強く抗議し、中止を求めます。

今回の工事着手が、日米安全保障協議委員会(2プラス2)に合わせて行なわれたものであり、アメリカの要求に追従した点も重大です。

馬毛島に基地が建設されFCLPが実施されれば、種子島の1市2町をはじめ周辺住民に深刻な騒音被害や軍用機墜落の危険などがもたらされるだけでなく、漁場が失われ漁業者が生業を失う重大な事態となります。この点については、防衛省が本体工事着手と同日に発表した環境影響評価(アセスメント)の評価書によっても、FCLPは年間最大5356回の飛行を想定しており、訓練は午前3時ころまでに及ぶとされていることから明らかです。

それゆえに、地元の西之表市では2017年と2021年の市長選挙で馬毛島の軍事基地化に反対する候補が勝利してきました。

これに対して政府・防衛省は、「基地再編交付金」を背景として島民への恫喝を強めてきました。この背景にあるのは、昨年12月に閣議決定が強行された「安保3文書」改定による「戦争国家」づくりであり、日米軍事一体化による南西諸島の軍備強化です。

地元では、「馬毛島への米軍基地建設に反対する市民・団体連絡会」を先頭に粘り強いたたかいが続けられており、基地建設を強行する岸田政権と、これを容認する鹿児島県当局への抗議行動に立ち上がっています。

私たちは、地元みなさんと連帯し、「戦争国家」づくりに反対するたたかいと結んで、基地建設工事中止を求めて運動を広げる決意です。

以上